

# 擁壁工-補強土擁壁工(テールアルメ工、連続長繊維補強土) 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

工法比較表対象技術
   新規対象技術(調査)
   削除技術

令和4年6月現在

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

(注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果 評価	活用 状況 (本省)	掲載期間 終了技術 (終了時期)	備考	NETIS HP リンク先(注)
1	トリグリッド	KT-110039	VE	本技術は急勾配の補強土壁を構築するためのジオテキスタイル補強土壁工法で、従来はテールアルメ工法で対応していた。本技術の活用により、軽量の溶接金網と腐食の懸念がない樹脂製補強材を用い、施工性に優れた補強土壁を迅速かつ経済的に構築することができる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	連続長繊維補強土工	[R2準推奨]	有				<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-110039%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-110039%20</a>
2	GSシステム(テールアルメGS・テラトレールGS)	CG-130014	VR	本技術は、高腐食環境下においてテールアルメの帯鋼(ストリップ)の代わりに適用する補強材で、従来は鋼材に対する防食対策等により対応していました。本技術(製品)の活用により、錆の問題が発生せず、高い耐久性を保った補強土壁を構築することができます。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工		有				<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-130014%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-130014%20</a>
3	ジオテキスタイル拘束土壁工法	KK-130036	VE	本技術は、ジオテキスタイルを用いて土質材料を拘束した構造体を積層して、自立した抗土圧構造物を構築する工法である。従来は、ジオテキスタイルを用いた補強土壁が適用されていたが、本技術の活用により躯体の形状がスリム化されるため、適用範囲と経済性が向上する。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-130036%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-130036%20</a>
4	高耐久型(HD-VIG)パネル	TH-160008	A	本技術は壁面にジオグリッド(テンサー)を埋め込むことにより、連結部の腐食の懸念がないジオグリッド補強土壁で、従来は連結部材に鋼材を使用したジオグリッド補強土壁で対応していた。本技術の活用により、パネルのコスト縮減と耐久性の向上が図れる。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	連続長繊維補強土工						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-160008%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-160008%20</a>
5	大型積みブロックアンカーウォール(チサンウォール)	KK-160008	A	本工法は、壁面に大型積みブロックを使用したアンカー式補強土壁工法であり、水平補強材に異形棒鋼、アンカー材に山形鋼など汎用性のある鋼材を使用している。従来工法に比べ施工時の作業性向上とコスト縮減を図ることが出来る。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-160008%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-160008%20</a>
6	テラグリッド補強土工法	HK-160018	A	本工法は壁面に樹脂製のジオセルを用いた補強土工法で、従来は鋼製枠を用いた補強土工法で対応していた。本技術の活用により凍上や塩害に対する耐久性が向上し、さらに壁面裏の締固めが容易なため、壁面裏の土の安定性が向上することが期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-160018%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-160018%20</a>
7	テンサーFWM工法	QS-170002	VE	本技術は、溶接金網製鋼製枠を用いた補強土壁工法で、従来はエキスパンダメタル製鋼製枠で対応していた。本技術の活用により、部材が軽量でかつ障害物が少ないため、日当り施工量が増加し、工期の短縮が期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他		有				<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170002%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170002%20</a>
8	チェーンウォール・マイティ	KK-170030	A	本技術は、鋼管で上下連結する壁面材と、補強材としてチェーンおよび支柱板の引き抜き抵抗力により補強領域を形成する補強土壁工法であり、従来はテールアルメ工法で対応していた。本技術の活用により経済性、施工性、景観の向上と工期短縮が期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-170030%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-170030%20</a>
9	テールアルメFS	QS-170031	A	テールアルメの過重や経年劣化による変状発生箇所を特定部材(FSコネクティブA)により、動態観測を外観目視によって変状を容易に確認できる構造とした。また、予備の部材(FSコネクティブB)を追加することにより、機能維持状態のまま対策工の検討・施工を可能にした。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170031%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170031%20</a>
10	ハイビーネオ	HK-180020	A	本技術は、補強土壁工法である。従来は帯鋼補強土壁などで対応していたが、本技術の活用で壁面材の薄型軽量化による施工性の向上及び短繊維混合改良土とジオグリッドによる補強土壁の品質向上が期待できる。また現場発生土の利用で環境への影響低減も可能となる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-180020%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-180020%20</a>
11	アデム	KK-980079	VG	本技術は、ジオテキスタイル補強土壁工法で、従来はテールアルメ工法、多数アンカー工法で対応していた。本技術の活用により、耐腐食性、耐久性、工期短縮、コスト縮減、緑化が期待できる。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	連続長繊維補強土工	[H26活用促進(旧)][活用促進]		◎	○ (H29年4月)		
12	アデムウォール	KK-020061	VG	アデムを配置して補強した盛土(補強盛土体)と壁面材とを变形吸収層を介して一体化させた二重構造。「壁面勾配の調整」「壁面あと施工による壁面変形の抑制」「センサー機能による盛土の健全度評価」「壁面の補修・取替え」等が可能な、多機能な補強土壁工法。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他	[H27準推奨][H23活用促進(旧)][活用促進]		◎	○ (H29年4月)		
13	緑化テールアルメ(テラトレールF2,テラヴェール)工法	TH-990034	VG	緑化テールアルメ工法は、テールアルメ工法の技術に準じた斜壁タイプの補強土工法です。従来のテラトレール工法の壁面材や補強材取付け部材の改良により、経済性ならびに施工性が向上しています。壁面は緑化や天然石積みタイプや、盛土構築後にコンクリート打設も可能です。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工	評価済み		◎	○ (H29年4月)		
14	補強土壁工法「テンサーダブルウォール」	CB-990067	VG	本工法は、鋼製枠形式あるいは間伐材枠形式の壁面工と石油化学2次製品のジオグリッド(商品名テンサー)を有機的に組み合わせて籠状のものをつくり、その中に現地発生土砂を詰め込むことにより構築した、現地合わせオーダーメイドのジオテキ二重壁補強土壁工法である。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他	評価済み		○	○ (H29年4月)		
15	テールアルメ工法A3	CB-040062	VG	従来のテールアルメの補強材(ストリップ)の配置を改善し、且つ摩擦面積を拡大したストリップを併用する事により、更なる施工性、経済性の向上を実現しました。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工	評価済み		○	○ (H29年4月)		
16	オールプレキャストテールアルメオールプレキャストテールアルメ	KT-210058	A	本技術は、テールアルメ工法の全プレキャスト化を図る技術で、従来は現場打コンクリートにより対応していた。本技術の活用により施工時の省人化・工期短縮が図られることとなり、生産性向上の効果に加え高所作業の軽減から作業安全性の向上が図れる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工						<a href="https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210058%20">https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210058%20</a>